

万華鏡

甲府商業高校 図書室
令和 7 年 1 月
NO. 5

全国的な読書週間(10月27日～11月9日)

2025・第79回 読書週間
10/27～11/9
こころとあたまの、
深呼吸。



読書週間は戦後間もない1947(昭和22)年、まだ戦火の傷跡が残っているころ、
「**読書の力によって、平和な文化国家を作ろう**」という決意のもと、出版社・取次
社・書店・公共図書館、そして新聞・放送のマスコミ機関も加わって11月17日から
第1回「読書週間」が開催されました。翌年から期間も文化の日を中心にした2週間
(10月27日から11月9日)と定め、全国にこの運動が広がっていきました。

それから約80年、「読書週間」は国民的行事として定着し、日本は世界有数の
「本を読む国民」の国となりました。

今年の「読書週間」が、みなさん一人ひとりに読書のすばらしさを知ってもら
うきっかけとなることを願っています。

(公益社団法人読書推進運動協議会 HP)

沖縄を知ろう！

2年生はもうすぐ修学旅行。

図書室入り口の特集コーナーに「沖縄」に
関連した本を集めてみました。

事前学習・普段の読書として、参考にして下さい。



図書委員会

図書委員会では、紫紺祭文化部発表として
「図書委員のおすすめ本のPOP」を図書室
入口前に展示しています。



新着本紹介



『僕の仕事はごみ清掃員。』

滝沢秀一／著

河出書房新社

書籍紹介：世の中にはごみとして生まれたものは一つもない。ごみかどうかをきめるの
は捨てる人自身。生きているかぎりごみとの付き合いはつづく。だからこそ、届けたい
「ごみの特別授業」。未来の自分を守り、人生を豊かにするごみの話。メディア&SNS
で話題のごみ清掃芸人マシンガンズ滝沢が贈るおもしろくて、ためになる特別授業。

『65人のこどものはなし』

光村図書出版編集部／著

光村図書出版

書籍紹介：あのととき、言葉にできなかった気持ち。
「こどもの自分」に会いに行く、エッセイ・アンソロジー。
三浦しをん、辻村深月、村田沙耶香、町田康、朝比奈あすか、斉藤壮馬ほか、多彩な
書き手がつづる“特別な記憶”。
児童文学雑誌「飛ぶ教室」に掲載した37篇の「こども」にまつわるエッセイと、
「{こども・大人} 辞典」(28名)を、ぎゅっと一冊の本に集める。
大切な日々に戻る、きらめく言葉が詰まっている。

『あやふや記憶の本棚』

あやふや文庫／著

飛鳥新社

書籍紹介：「思い出せそうで思い出せないあやふやな本の記憶」を集めて正解を探すこの
アカウントが開設されてから5年。集まった記憶の数は、なんと8000以上！
今回はこれまで集まった記憶の中から、・みんなが探している本・“あの”有名作品・
耳について離れないフレーズ・おいしい記憶などなど、様々な切り口で記憶と本を紹介。
まだ見つかっていない「未解決の記憶」も掲載！

★『N』 道尾秀介／著 集英社

★『そんな言葉があることを忘れていた』 せきしろ／著 左右社

★『あなたの名』 小池水音／著 新潮社

★『クマはなぜ人里にでてきたのか』 永幡嘉之／著 旬報社

★『小説8番出口』 川村元気／著 水鈴社

★『ここはすべての夜明けまえ』 間宮改衣／著 早川書房

★『クロエとオオエ』 有川ヒロ／著 講談社

★『泣きたい午後のご褒美』 青山美智子／著 ポプラ社

★『9月1日の朝へ』 椰月美智子／著 双葉社

★『日曜日の文芸クラブ』 小手鞠い／著 講談社

★『あきらめる』 山崎ナオコ／著 小学館

★『マスカレードライブ』 東野圭吾／著 集英社

★『沖縄について私たちが知っておきたいこと』 高橋哲哉／著 筑摩書房

★『考え方ひとつで明日はもっとうまくいく』 内藤誼人／著 明日香出版社

★『友だち関係で悩んだときに役立つ本を紹介します。』 金原ひとみ／著 河出書房新 他



返却期限が過ぎていませんか？

夏休み前に借りた本を返していない人はすぐに返却しましょう。

